

## 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1. 基本情報	
(1) 案件名	チパパ地域における HIV/エイズ対策プロジェクト (フェーズ3) Chipapa HIV/AIDS Project (Phase 3)
(2) 贈与契約締結日 および事業期間	・ 贈与契約締結日 : 2011 年 10 月 12 日 ・ 事業期間 : 2011 年 10 月 14 日 ~ 2012 年 10 月 13 日
(3) 供与限度額 および実績 (返還額)	・ 供与限度額 : 494,901 米ドル ・ 実績 : 494,901 米ドル (返還額 : 0 米ドル)
(4) 団体名・連絡先、事 業担当者名	(イ) 団体名 : 特定非営利活動法人 難民を助ける会 Association for Aid and Relief, Japan (AAR JAPAN) (ロ) 電話 : 03-5423-4511 (ハ) FAX : 03-5423-4450 (ニ) E-mail : <a href="mailto:staff@aarjapan.gr.jp">staff@aarjapan.gr.jp</a> (ホ) 事業担当者名 : 堀越 芳乃、加藤 亜季子、直江 篤志
(5) 事業変更の有無	事業変更の有無 : 無

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>HIV 抗体検査・カウンセリング (VCT) センター建設による環境整備、12 の住民グループによる HIV/エイズ予防啓発活動、陽性者への服薬支援を含む社会的・心理的な支援活動を通し、チパパ周辺地域における HIV 感染拡大阻止に貢献した。</p> <p>フェーズ 1 および 2 と比較し、本事業実施後は、当地域内クリニックの VCT 受検者における HIV 感染率の低下が確認され、HIV 陽性者への家庭訪問や病院搬送体制が整い、地域住民による予防啓発およびケア・サポート活動の成果が確認された。</p>
(2) 事業内容	<p><b>(イ) VCT センターの建設</b></p> <p>VCT センター建設は予定通り 4 月中旬に着工したが、建設半ばで下水および電力設備を新たに整備する必要が生じた。そのため、予定より 1 ヶ月遅れの完成となり、10 月 3 日の引渡式をもってカフエ郡保健局に正式に譲渡した。供与した物品は適切に維持・管理されており、現在日曜日を除く毎日、検査およびカウンセリングが実施されている。</p> <p><b>(ロ) 住民グループによる持続的な HIV/エイズ対策活動支援</b></p> <p>住民グループ (6 校のエイズ対策クラブ、2 つの家庭訪問看護グループ、3 つの若者グループ、1 つの陽性者グループ) メンバー約 310 人に対し、当初の予定 22 回を大幅に上回る計 58 回のワークショップを実施した。これら住民グループによる HIV/エイズに関連した啓発活動を 67 回 (予定 70 回)、のべ 8,788 人の地域住民に対して実施した。(詳細は添付【参考資料】①および②参照)</p> <p><b>1. 各住民グループが活動を効果的に実施するための知識や技術を習得するワークショップの開催</b></p> <p>当会がフェーズ 1 から繰り返し指導してきた「計画→実施→評価 (評価を踏まえた次の計画)」の活動サイクルを各住民グループが用いて活動することで活動実施のサイクルを定着させ、住民グループは活動計画に沿って着実に且つ自主的に活動を実施した。また、効果的な啓発活動が実施できるようになったことで住民グループ自身が啓発活動の成果を実感でき、自立発展性も確保された。</p> <p>ワークショップは、新しい内容や技術に加え、知識の定着を高めるために各グループの状況を考慮して実施した。例えば、前年に計画通り活動できなかった住民グループや新たなメンバーが加入したグループに対しては、以前学んだ内容を復習するためのワークショップを適宜実施した。</p> <p>家庭訪問看護グループに対しては、訪問看護に必要な体温計などの訪問看護キットを供与するとともに、その正しい管理・使用方法を学ぶワークショップを開催した。また、同グループに抗レトロウイルス薬 (Antiretroviral Drugs: ARV 薬) 服薬のサポート方法を指導することで、訪問先において HIV 陽性者からの相談にも対応できるようになり、陽性者の心理社会的な支援体制の確立に寄与した。</p> <p><b>2. 各グループによる住民向け啓発およびケア・サポート活動の実施</b></p> <p>学校エイズ対策クラブと若者グループは、生徒および地域住民に</p>

	<p>対して啓発活動を計 67 回、のべ 8,788 人に対して実施した。小中学校 6 校のエイズ対策クラブ（ルカマンタノ校、チパパ校、チポングウェ校、ヘティデネン校、マカングウェ校、セントパトリックス校）は、昼休みに各クラスを回り HIV/エイズに関する情報を伝える「クラス巡回啓発活動」を一年間で計約 40 回実施し、若年妊娠の危険性、コンドーム使用や性感染症予防といった多岐にわたるテーマを訴えた。さらにエイズ対策クラブおよび若者グループは、世界エイズデーや国家 VCT デーなどの記念日を効果的かつ積極的に活用し、寸劇やスピーチによる HIV/エイズ理解、VCT 促進のための啓発活動を 7 回実施し、より多くの地域住民の理解促進に貢献した。こうしたクラス巡回啓発活動やイベント実施にあたっては、ファシリテーションや寸劇スキルなど技術習得のためのワークショップを事前に適時実施したことで、ワークショップ参加者が本番で自信を持って啓発活動に臨めていることが確認された。</p> <p>家庭訪問看護グループによる家庭訪問を通じたケア・サポート活動は計画通り実施され、陽性者へのケア・サポート体制が整った。HIV 陽性者のべ 939 人（10 月末時点）を訪問し、体調確認や介助など陽性者とその家族をサポートした。またフェーズ 2 までに供与した救急カートおよび自転車は、クチャフワナ家庭訪問看護グループおよびシマバラ地域保健委員会がほぼ毎日搬送サービスに利用している。さらに供与した訪問看護キットも家庭訪問時に活用されている。</p> <p><b>3. 住民グループが活動を持続するための運営管理能力の強化</b></p> <p>9 つの住民グループ計 150 名に対し、活動評価に基づいた新たな活動計画の立案能力習得およびグループ運営管理に関するワークショップを開催した。救急カートおよび自転車を供与した訪問看護グループに対しては、利用記録作成や修理技術習得の機会を設けたほか、使用料徴収に関する助言を行うなど管理体制を強化した。</p> <p>更に、すべての住民グループに対し、定例会を通じて、資金調達のための所得創出活動や活動資金申請に関連する情報を提供するとともに、各グループの運営状況に応じ、彼らが自主的かつ積極的に取り組めるよう、具体的な内容や方法について助言をした。</p>
(3) 達成された効果	<p>(イ) VCT センターの完成以降、10 月は 112 人、11 月は 135 人が HIV 抗体検査を受検しており、受検者数は 2010 年月平均の約 3 倍に上っている。VCT 専用スペースが整備されたことで、他科診療中でも受検が継続できるようになり、受検者の待ち時間短縮、プライバシー確保など効率面および環境面が向上した。また HIV/エイズ情報室の設置により、地域住民が常時正しい情報を入手できる環境が整った。現在、同センターは住民グループの定例会にも活用され、当センターを利用した啓発活動も計画されている。</p> <p>さらに VCT 受検者における HIV 感染率が、本事業終了時は 10.8%（フェーズ 1: 18.2%、フェーズ 2: 12.1%）で、本事業を開始した 2009 年以降、年々減少傾向にあることが確認された。</p> <p>(ロ) <b>成果①</b>: 小中学校のエイズ対策クラブでは主にクラス巡回や学内集会など、地域ではビデオ上映や戸別訪問などを通じ、地域住</p>

	<p>民のべ 8,788 人に対し啓発活動を行った。ビデオ上映後には質疑応答が活発に行われ、地域住民の誤った知識の是正や不安解消に繋がるとともに、VCT 受検増加が確認された。また、事業終了時評価にて、HIV 陽性者に対する差別や偏見の是正、コンドーム使用などの行動変容が確認された。</p> <p><b>成果②</b>：家庭訪問看護グループの訪問先である ARV 服用者の多くが体調の良い状態を維持することができている。救急カートに関しては 10 月末までにチパバ、シマバラ 2 地域で計 880 回の病院搬送に利用され、供与した 20 台の 9 割以上が稼動しており、妊産婦、急病患者や HIV 陽性者を迅速に搬送する体制の確立に大きく貢献したといえる。これらのカートは、メンバーがワークショップで習得した維持管理のノウハウを活かして適切な管理を行っている。</p> <p><b>成果③</b>：各住民グループで前年の活動評価を実施した後に活動計画を策定し、計画に基づいて活動を進めたことで、住民グループの間で活動の実施サイクルが定着した。活動継続のための資金調達は、会費の徴収や校内イベントなど、各グループ自らが調達方法を考案し実施している。中でもクチャフワナ訪問看護グループは、カフエ郡から助成金を得て、資金を獲得している。</p> <p>フェーズ 3 の裨益者数（実績）は以下のとおり。 直接裨益者数のべ 2,331 人、間接裨益者数 8,788 人</p>
(4) 持続発展性	<p>VCT センターは正式にカフエ郡保健局に引き継がれ、管理・運営されている。また VCT 受検のみならず、今後はクリニックと住民グループの協働により、HIV/エイズに関連する情報提供および予防啓発活動の実施拠点としての役割を担うことが大いに期待される。</p> <p>学校のエイズ対策クラブは、校内外での活発な啓発活動を通じて多くの地域住民にその活動が認知され、また、HIV/エイズ対策に必要な知識を伝達できたことでクラブの存在意義が高まった。また低学年リーダーの養成により、現リーダーが卒業しても活動が停止や停滞することがなくなり、活動の持続性を高める仕組みづくりに繋がった。また、住民グループ間で連携を強化することで、今後合同で啓発活動を計画するなどの住民グループ同士の協働も期待できる。図書館に HIV/エイズ関連情報コーナーを設けたルカマンタノ校では、常時情報を入手できる環境が整っている。</p> <p>家庭訪問看護グループや若者グループは、メンバーからの会費徴収や所得創出活動に向けた協議などを実施しており、活動運営費捻出のための資金調達活動への意識や意欲も高まっている。</p> <p>3 年にわたる本事業を通じ、各住民グループの活動の質向上、活動に対する地域住民の認知とサポート、資金調達を含むグループマネジメント力の向上など住民グループの HIV/エイズ対策活動の持続発展性を担保するために不可欠な要素の強化に取り組んできた。その結果、事業終了後も住民グループが中心となり、チパバ地域におけるケア・サポート体制が継続することが期待される。</p>

3. 事業管理体制、その他	
(1) 特記事項	特になし

完了報告書記載日：2013年1月13日  
団体代表者名：特定非営利活動法人 難民を助ける会

理事長 <sup>おき</sup>長(志邨) 有紀枝(印)

【添付書類】

- ① 日本NGO連携無償資金収支表(様式4-a)
- ② 外部監査報告書
- ③ 事業内容、事業の効果に関する写真
- ④ 【参考資料①】実施したワークショップ一覧表
- ⑤ 【参考資料②】実施した啓発活動一覧表
- ⑥ 日本NGO連携無償資金使用明細書
- ⑦ 銀行残高証明